

2011年度 早稲田大学 社会科学部

日本史 解答例

I 奈良時代の政治 <易>

- 問1 イ・ニ 問2 ハ・ホ 問3 ニ・ホ 問4 イ・ロ
問5 ロ・ニ 問6 ホ 問7 イ 問8 ロ

正誤問題に血縁を考えさせる選択肢がたくさんあるが、各人物の関係を思い出しながら一つ一つ検証していかなければならない。しかし、その対策として系図をそのまま覚えるというのはやりすぎで、時間と労力のムダである。天皇や藤原氏の骨組みをつかんだら、後は入試で出題される部分の血縁だけを覚えるべきである。覚えるべき情報と覚えるコツの二つを持っている受験生は優位に立てる。

II 蒙古襲来・阿氏河荘民の訴状 <易>

- 問1 ロ・ホ 問2 イ・ロ 問3 ハ 問4 ハ
問5 ロ 問6 イ・ハ 問7 ハ 問8 イ・ニ

正誤問題はどれも「不適切なもの」を選ばせる形で、一部に「2つ」選ばせる問題が出題されている。正誤問題で「2つ選べ」問題を苦手としている受験生は多いが、この大問で言うなら「1つ選べ」問題よりラクだったとも言える。なぜなら、正文を3つ判別するだけで、残りの2つが誤文とわかるからだ。たとえば問2と問3をくらべると、問2の方が正解を選びやすいとは思わないだろうか。もっとも問8はやや難しかったかもしれない。

III 江戸後期の西洋文化・技術の摂取 <易>

- 問1 イ・ハ 問2 イ 問3 ロ・ハ 問4 ロ・ニ
問5 ニ 問6 ホ 問7 ニ 問8 イ・ホ

問8を難しいと感じた人がいるかもしれない。とくに選択肢ニの正誤判別ができなかった人がいるようだ。しかし、選択肢ハに「高島秋帆」があるため、「江川太郎左衛門」との語句入れ替えだと気づきやすい。高島秋帆を招いて行われた西洋砲術演習については、山川出版の『詳説日本史』には書かれていないが、別の教科書には書かれているし、何よりも多くの大学で出題されている頻出事項であった。その

逆に「グラバー」などめったに出題されない人物である。この問題もそれを知らずとも余裕で正解できた。

IV 第一次世界大戦とワシントン会議 <やや難>

問1ニ 問2イ・ホ 問3ロ・ニ 問4イ・ニ

問5ニ 問6ハ 問7イ・ハ 問8イ・ホ

問2・問4が難問で、問5がやや難しい問題。それにしても今年の早稲田では、いくつもの学部で二十一カ条要求が出されていた。これを「早稲田は出題したがない」などと思い込んでいた受験生がいるようだが、客観的な出題データを見ればその逆であることは明らかだった。根拠のない出題予想はやめて、冷静に受験日本史に取り組んでもらいたい。

V 高度経済成長 <やや易>

問1ロ 問2ロ 問3イ・ホ 問4ハ・ニ

問5イ・ニ 問6イ 問7ハ 問8ロ・ニ

問3では、今年の政治経済学部の論述問題に引きつづいてまた細川護熙首相の所属政党が問題となった。政治経済学部でその論述が書けなかった受験生は、試験後に確かめていたことだろう。それがここで役立ったのではないだろうか。選択肢の口に悩まされるためやや難しい問題と言えるが、イを確実に誤文と判別できれば正解できた。あとは問8がやや難しかっただろう。

講評

例年、社会科学部だけが用語知識を求めるだけの単純な問題が多かったが、今年はそれが減った。正誤問題も他の学部とは一風変わっていたが、今年はそれもなくなり、他学部と同じく考えさせる正誤問題が多くなった。思考力の高さが問われたわけである。このため合格者の顔ぶれも、例年とは違っていることだろう。やはり早稲田を狙うなら、中身の濃い日本史学習をしてもらいたい。